

拾六町高架橋

移動支保工による都市内高架橋の施工



施主	建設省
施工場所	福岡県福岡市西区
完成年	1999年
橋長	948.1m(下り線の施工)
形式	連続中空床版橋(12+10+10径間)
全幅	9.475m
最大支間	32.0m
桁高	1.4m
架設方法	移動支保工
参考文献	プレストレストコンクリート シンポジウム 1998年

本橋は、多径間連続構造であるため、施工中の上部工の収縮変形を吸収するため予備せん断型の免震支承が採用されている。

橋脚上の柱頭ブロックは、移動支保工の支持架台を受けるために先行施工された。

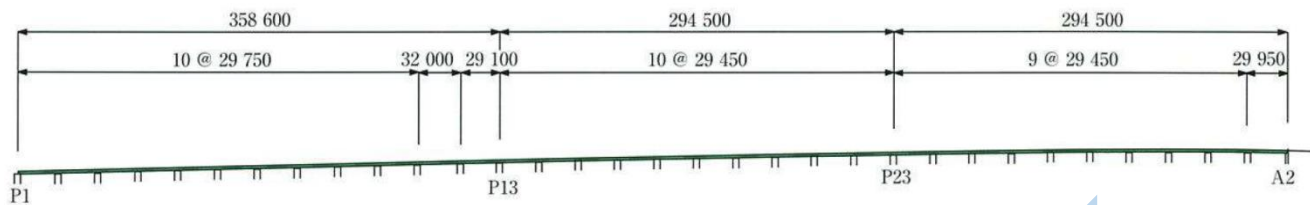
施工にはハンガー式の大型の移動支保工が用いられた。

別業者の施工による上り線との離隔が小さかったため、上り線側の型枠の開閉に工夫が施された。

桁下空間に余裕がなく型枠の開閉が困難な径間では、型枠を一旦地上のトラックに吊りおろして次径間へ搬送した。

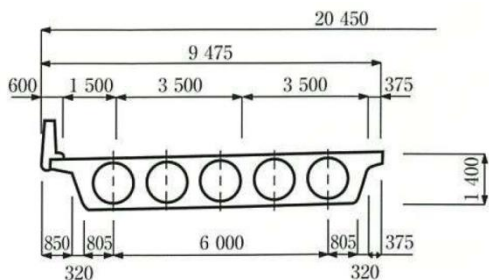
桁下道路の右折レーンの関係で柱がオフセットしている橋脚においては、施工中の過度のアンバランス荷重に対応するために仮支柱が設けられた。

側面図



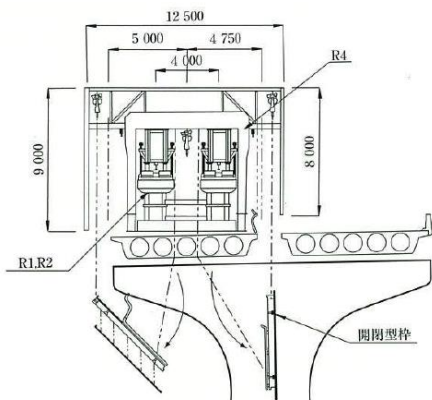
← 施工方向

断面図

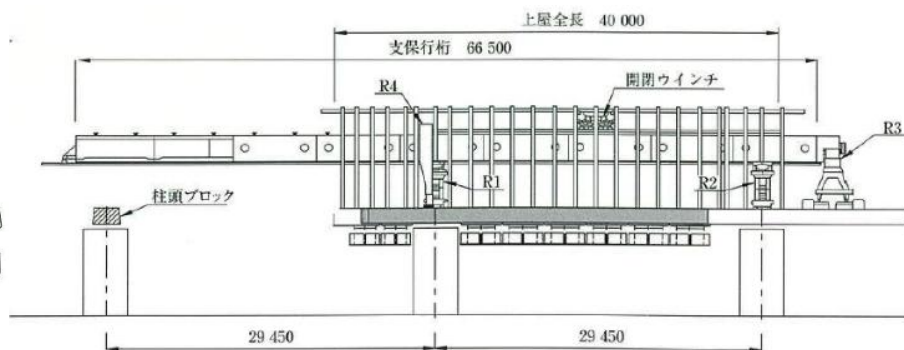


移動支保工

正面図



側面図



型枠組立



配筋作業



円筒型枠の配置



型枠開放



支保工移動

